

2015年 救護統計



福島県を中心に全国へ安心と安全をお届けします

佐藤レスキュープラン

ご挨拶

救護事業を開始して1年が経過しました。改めましてご依頼いただきました主催者の皆様へ感謝いたします。

当事業所では救護対応案件について救急専門医師、救急救命士等で活動検証を行っております。

この度、当事業所で実施した救護に関する統計を発行することとなりました。今後のイベント救護等ご検討する際にご覧いただければと思います。今後、数年間のデータを蓄積しより良いものにしたいと思います。

2015年担当させていただいたイベント救護の中では心肺停止事例が1例発生しました。関係者の迅速な認識で救護班を要請頂き、救命することが出来ました。また救急車を要請する事案も発生し、イベント内での救急救命士の役割はますます増大すると確信しております。

イベントの安全に貢献するのはもちろんですが、救急車要請の判断により、軽症者への救急出動が減り、より重症な傷病者へ救急車が出動できるということを意識してこれからも取り組んで参りたいと思います。

代表 佐藤武諭毅



1 救護対応件数

平成27年4月1日～平成27年12月31日までの間で当事業所所属の救急救命士が対応した傷病者数は63名となりました。うち消防（行政）救急車要請件数が2件、傷病者が歩行困難で救急救命士が現場へ急行し、観察・搬送した件数は4件となりました。

各種救護件数

	2015年
救護対応傷病者数	63
うち重症	1
うち中等症	1
うち軽症	61
消防救急車要請件数	2
救急救命士現場急行件数	4

2 事故種別

救護で発生した事故種別は下記のとおりです。急病が最も多い結果となりました。特に眩暈、吐き気、嘔吐といった気分不快を訴える傷病者への対応が多く発生しました。

事故種別件数

	2015年
急病	59
一般負傷	4
計	63

3 男女比

救護では女性の傷病者数が多く発生しました。この状況を踏まえて女性救急救命士の配置について再度検討を開始しました。

男女比件数

	2015年
男性	8
女性	55
計	63

4 重症事案について

重症事案（1例）については心肺停止が発生しました。現場で心肺蘇生法、AEDによる電気ショックを1回実施し、意識、呼吸、脈が戻りました。その後消防救急隊に引き継ぎを行いました。

今回の事案ではAEDが敷地内管理棟に置かれておりましたが、距離が約700m離れていたこと、管理棟の施錠管理状況が不明だったために当事業所にてAEDを手配しました。

また関係者による初期対応により、救護班の早期認識、心肺蘇生法の早期着手が出来ました。改めて参加者、関係者への心肺蘇生法講習会が重要であると感じました。

5 救急車の適正利用について

救急隊員の皆さんは重傷者を素早く観察し、病院へ搬送を行う努力、訓練を日々行っています。イベント救護では軽症が多数を占めます。安易な救急要請は控えるようにしましょう。

しかし中には重症な傷病者が発生する場合があります。民間の救急救命士等を活用し、イベント内の安全性向上とイベント会場周辺地域への救急需要増大防止に努めましょう。

6 今後の対応と課題

傷病者発見の連絡は大多数が参加者です。救護班との迅速なコンタクトが取れるように専用携帯電話番号の配布、救急車を要請すべき状況、主催者様ホームページ内で救護班、心肺蘇生法のご紹介などができるように対応を進めていきたいと思えます。

またマラソン大会の依頼増加に伴い、怪我予防のストレッチ、筋肉の張りや痛みに対する鍼灸治療を鍼灸師、スポーツトレーナの資格を持つご専門の先生に同行いただくサービスを開始しました。救護だけでなく、医療全体、イベント主催者の目線に合わせた提案が出来ればと考えております。

この資料に関するお問い合わせ先

佐藤レスキュープラン

代表 佐藤武諭毅

電話：024 - 955 - 6542